学校だより

平田野中学校通信

令和８年９月 14 日　第７号

平田野中　検索

Tel 378-0126　Fax 378-4895

学力調査の結果より（続報）

＜3年生英語＞全国平均をやや下回る

強み

「日常的な話題における概要の把握」と「特定の情報の正確な読み取り」についての正答率は全国を上回っています。具体的には、職場体験の発表を聞いて出来事の順序を整理する問題、メール文から誕生日パーティーの時刻を読み取る問題、中学生になってからの思い出」を記述する問題です。これらの結果から、定型的な文章や音声から必要な情報を抽出したり、身近な話題について述べたりする基礎的な技能は着実に身に付いていると考えられます。

弱み

自分の考えやその根拠を英語の文章として構成する際に、思考が停止してしまう、あるいは記述を諦めてしまう傾向が顕著です。普段の定期テストや単元テストにおいても、粘り強く取り組む姿勢に弱さが見られ、すぐに諦めてしまい、空欄のまま提出する生徒がいるように、間違っていてもよいから、挑戦し、書いてみようとする生徒が少ない点が課題といえそうです。

今後に向けて

第一に「条件付き課題解決型活動」を授業に導入、第二に、ライティングにおける無解答ゼロを目指した段階的指導、第三に、「思考の可視化」を促す ICT の活用を進めていきたいと思います。聞く・読む情報を「判断」の材料とし、書く活動で「発信」する統合的な言語活動を展開していきたいと考えています。

＜2年生理科＞全国平均をやや下回る

強み

蒸留実験における温度変化のグラフを正しく選択する設問、密度の比較から物質を特定する設問など、「エネルギー」や「粒子」の領域で特定の知識活用において県平均を上回っています。実験データの視覚的な分析や、基本的な科学用語の適用については、良好な定着が見られるようです。

弱み

蒸留実験で加熱をやめる前に特定の操作を行う理由を説明する設問や、考察の妥当性を高めるために測定範囲や刻み幅を調整する方法を説明する設問で県平均を下回っていることから、科学的な語彙を用いた考察の記述力や、実験の妥当性を高めるための改善案を提示する力が不足しているようです。

今後に向けて

実験器具の操作においては、常に「なぜその操作が必要なのか」という安全管理と結果の信頼性の視点から理由を問い、言語化させたり、考察の活動では、得られた数値やグラフから「比例」か「非比例」かを判断する根拠を、具体的な数値を挙げて記述させたりすることが必要だと思われます。実験の精度を高める計画立案を生徒自身に経験させ、うまくいかなかった理由を考える経験も必要だと思われます。

＜1年生国語＞県平均をやや下回る

強み

辞書を用いて「対照」などの語句の意味と使い方を理解し、適切な選択肢を選ぶ設問や、文中の修飾・被修飾の関係を捉える設問において県平均を上回っていることから、知識及び技能の基礎が安定しているようです。このことから、既存の知識を特定の場面に適用し、複数の選択肢から正解を特定する形式においては、強みであると考えられます。

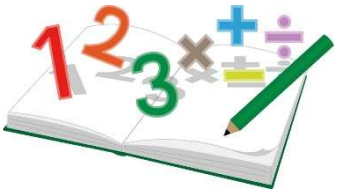
弱み

「読むこと」領域の正答率が極めて低く、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力に大きな課題があると考えられます。また、記述問題における無解答率が高い点も弱みであり、他者の発言を比較しながら自分の考えをまとめること、情報を構造化してアウトプットする表現力が全体的に不足しているようです。

今後に向けて

記述問題の無解答を減らすため、学習端末を活用し、他者の回答と比較検討させることで、自らの考えを修正させる言語活動を取り入れたり、部分点が得られる書き方のポイントを具体的に示し、心理的なハードルを下げたりする活動を取り入れるなどしていきたい。また、読書活動を積極的に進めていくことも有効だと考えています。

＜1年生数学＞県平均を下回る



強み

度数分布表から特定の階級の度数を求める設問などの正答率から、「データの活用」領域において強みが見られます。また、小数の計算や円柱の体積を求める公式の適用など、定型的な数値算出や、既習の性質を単純に適用する場面では高いパフォーマンスを発揮しており、強みといえそうです。

弱み

中央値を用いて判断の根拠を説明する設問や平行四辺形の面積の求め方を論理的に記述する設問といった、数学的な解釈を言葉で説明する記述式問題に顕著な課題があるようです。全体として、単に計算を行うだけでなく「なぜそのようになるのか」という論理的な裏付けを言語化する力が著しく欠けている状況が弱みといえそうです。

今後に向けて

図形の面積や割合の概念を、実生活の具体的な事象（果汁の濃度や混み具合など）と結びつけ、「なぜその式や数値になるのか」を言葉で説明する言語活動や、伴って変わる二つの数量の関係を論理的に説明させる場を授業内に取り入れる必要があると思われます。

＜1年生理科＞県平均並み

強み

「エネルギー」領域の基礎知識が定着しており、ふりこの規則性に関する条件制御や、電磁石の極の性質に関する設問で県平均と同等以上の成績を収めています。また、地学分野の基礎的な規則性の理解においても一定の力を示しており、基本的な科学的原理を具体的な事象に当てはめる技能は備わっている点が強みと考えられます。

弱み

レタスの発芽実験の結果から新たな疑問を設定する設問や、てこの実験で変数制御の注意点を記述する設問で正答率が極めて低い点から、科学的探究のプロセスにおいて、新たな問題を見出す力や実験計画を立案する力が弱みと考えられます。未知の事象に対し、既習事項を根拠として論理的な考察を記述する力も弱いようです。

今後に向けて

実験を行う際、結果を確認するだけでなく、「なぜこの条件を同じにする必要があるのか」という変数制御の意義を常に生徒に考えさせる機会を増やしたり、実験結果から規則性を見出す活動では、単語だけでなく、主語と述語を明確にした論理的な文章で記述させたりする活動を取り入れる必要があると思われます。

学校だより

平田野中学校通信

令和８年９月 14 日　第７号

平田野中　検索

Tel 378-0126　Fax 378-4895

学力調査の結果より（続報）

＜3年生英語＞全国平均をやや下回る

強み

「日常的な話題における概要の把握」と「特定の情報の正確な読み取り」についての正答率は全国を上回っています。具体的には、職場体験の発表を聞いて出来事の順序を整理する問題、メール文から誕生日パーティーの時刻を読み取る問題、中学生になってからの思い出」を記述する問題です。これらの結果から、定型的な文章や音声から必要な情報を抽出したり、身近な話題について述べたりする基礎的な技能は着実に身に付いていると考えられます。

弱み

自分の考えやその根拠を英語の文章として構成する際に、思考が停止してしまう、あるいは記述を諦めてしまう傾向が顕著です。普段の定期テストや単元テストにおいても、粘り強く取り組む姿勢に弱さが見られ、すぐに諦めてしまい、空欄のまま提出する生徒がいるように、間違っていてもよいから、挑戦し、書いてみようとする生徒が少ない点が課題といえそうです。

今後に向けて

第一に「条件付き課題解決型活動」を授業に導入、第二に、ライティングにおける無解答ゼロを目指した段階的指導、第三に、「思考の可視化」を促す ICT の活用を進めていきたいと思います。聞く・読む情報を「判断」の材料とし、書く活動で「発信」する統合的な言語活動を展開していきたいと考えています。

＜2年生理科＞全国平均をやや下回る

強み

蒸留実験における温度変化のグラフを正しく選択する設問、密度の比較から物質を特定する設問など、「エネルギー」や「粒子」の領域で特定の知識活用において県平均を上回っています。実験データの視覚的な分析や、基本的な科学用語の適用については、良好な定着が見られるようです。

弱み

蒸留実験で加熱をやめる前に特定の操作を行う理由を説明する設問や、考察の妥当性を高めるために測定範囲や刻み幅を調整する方法を説明する設問で県平均を下回っていることから、科学的な語彙を用いた考察の記述力や、実験の妥当性を高めるための改善案を提示する力が不足しているようです。

今後に向けて

実験器具の操作においては、常に「なぜその操作が必要なのか」という安全管理と結果の信頼性の視点から理由を問い、言語化させたり、考察の活動では、得られた数値やグラフから「比例」か「非比例」かを判断する根拠を、具体的な数値を挙げて記述させたりすることが必要だと思われます。実験の精度を高める計画立案を生徒自身に経験させ、うまくいかなかった理由を考える経験も必要だと思われます。

＜1年生国語＞県平均をやや下回る

強み

辞書を用いて「対照」などの語句の意味と使い方を理解し、適切な選択肢を選ぶ設問や、文中の修飾・被修飾の関係を捉える設問において県平均を上回っていることから、知識及び技能の基礎が安定しているようです。このことから、既存の知識を特定の場面に適用し、複数の選択肢から正解を特定する形式においては、強みであると考えられます。

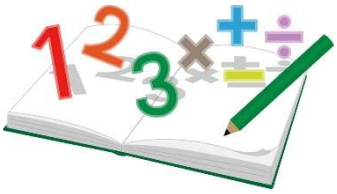
弱み

「読むこと」領域の正答率が極めて低く、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力に大きな課題があると考えられます。また、記述問題における無解答率が高い点も弱みであり、他者の発言を比較しながら自分の考えをまとめること、情報を構造化してアウトプットする表現力が全体的に不足しているようです。

今後に向けて

記述問題の無解答を減らすため、学習端末を活用し、他者の回答と比較検討させることで、自らの考えを修正させる言語活動を取り入れたり、部分点が得られる書き方のポイントを具体的に示し、心理的なハードルを下げたりする活動を取り入れるなどしていきたい。また、読書活動を積極的に進めていくことも有効だと考えています。

＜1年生数学＞県平均を下回る



強み

度数分布表から特定の階級の度数を求める設問などの正答率から、「データの活用」領域において強みが見られます。また、小数の計算や円柱の体積を求める公式の適用など、定型的な数値算出や、既習の性質を単純に適用する場面では高いパフォーマンスを発揮しており、強みといえそうです。

弱み

中央値を用いて判断の根拠を説明する設問や平行四辺形の面積の求め方を論理的に記述する設問といった、数学的な解釈を言葉で説明する記述式問題に顕著な課題があるようです。全体として、単に計算を行うだけでなく「なぜそのようになるのか」という論理的な裏付けを言語化する力が著しく欠けている状況が弱みといえそうです。

今後に向けて

図形の面積や割合の概念を、実生活の具体的な事象（果汁の濃度や混み具合など）と結びつけ、「なぜその式や数値になるのか」を言葉で説明する言語活動や、伴って変わる二つの数量の関係を論理的に説明させる場を授業内に取り入れる必要があると思われます。

＜1年生理科＞県平均並み

強み

「エネルギー」領域の基礎知識が定着しており、ふりこの規則性に関する条件制御や、電磁石の極の性質に関する設問で県平均と同等以上の成績を収めています。また、地学分野の基礎的な規則性の理解においても一定の力を示しており、基本的な科学的原理を具体的な事象に当てはめる技能は備わっている点が強みと考えられます。

弱み

レタスの発芽実験の結果から新たな疑問を設定する設問や、てこの実験で変数制御の注意点を記述する設問で正答率が極めて低い点から、科学的探究のプロセスにおいて、新たな問題を見出す力や実験計画を立案する力が弱みと考えられます。未知の事象に対し、既習事項を根拠として論理的な考察を記述する力も弱いようです。

今後に向けて

実験を行う際、結果を確認するだけでなく、「なぜこの条件を同じにする必要があるのか」という変数制御の意義を常に生徒に考えさせる機会を増やしたり、実験結果から規則性を見出す活動では、単語だけでなく、主語と述語を明確にした論理的な文章で記述させたりする活動を取り入れる必要があると思われます。